

## ♪早春賦

一、春は名のみ 風の寒さや  
谷の鶯（うぐいす） 歌は思えど  
時にあらずと 声も立てず  
時にあらずと 声も立てず

二、氷解け去り（とけさり） 葦（あし）は  
角ぐむ（つのぐむ）  
さては時ぞと 思うあやにく  
今日もきのうも 雪の空  
今日もきのうも 雪の空

三、春と聞かねば 知らでありしを  
聞けば急かる（せかる） 胸の思（おも  
い）を  
いかにせよとの この頃か  
いかにせよとの この頃か

## ♪春の歌（桜の花の～）

一、桜の花の咲く頃は  
うらら うららと 日はうらら  
ガラスの窓さえ みなうらら  
学校の庭さえ みなうらら

二、河原（かわら）で雲雀（ひばり）の鳴く  
頃は  
うらら うららと 日はうらら  
乳牛舎（ちちや）の牛さえ みなうらら  
鶏舎（とりや）の鶏（とり）さえ みなうら  
ら

三、畑に菜種（なたね）の咲く頃は  
うらら うららと 日はうらら  
渚（なぎさ）の砂さえ みなうらら

どなたの顔さえ みなうらら

## ♪ひばり

一、パイパイパイとさえずる雲雀（ひばり）  
さえずりながらどこまであがる  
高い高い 雲の上か  
声は聞こえて見えない雲雀

二、パイパイパイとさえずる雲雀  
さえずりやんでどこらへ落ちた  
青い青い 麦の中  
姿かくれて見えない雲雀

## ♪茶摘

一、夏も近づく八十八夜（はちじゅうはちや）  
野にも山にも若葉が茂る  
あれに見えるは茶摘じゃないか  
あかねだすきに菅（すげ）の笠（かさ）

二、日和（ひより）つづきの今日此頃（きよ  
うこのごろ）を  
心のどかに摘みつつ歌う  
摘めよ 摘め 摘め 摘まねばならぬ  
摘まにゃ日本の茶にならぬ

※一番をもう一度

## ♪村祭

一、村の鎮守（ちんじゅ）の神様の  
今日はめでたい御祭日（おまつりび）  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
朝から聞える笛太鼓（ふえたいこ）

二、年（とし）も豊年満作（ほうねんまんさく）で  
村は総出（そうで）の大祭（おおまつり）  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
夜まで賑う（にぎわう）宮の森（みやのもり）

三、治まる（おさまる）御代（みよ）に神様の  
めぐみ仰ぐや（あおぐや）村祭  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
聞いても心が勇み立つ（いさみたつ）

### ♪冬景色

一、さ霧（さぎり）消ゆる（きゆる）湊江（みなとえ）の  
舟（ふね）に白し（しろし）朝の霜（しも）  
ただ水鳥（みずどり）の声はして  
いまだ覚めず（さめず）岸の家  
  
二、烏（からす）啼きて（なきて）木に高く  
人（ひと）は畑（はた）に麦を踏む（ふむ）  
げに小春日（こはるび）ののどけしや  
かえり咲（かえりざき）の花も見ゆ

三、嵐吹きて雲は落ち  
時雨（しぐれ）降りて（ふりて）日は暮れぬ  
若し（もし）燈火（ともしび）の漏れ来ずば  
（もれこずば）  
それと分かじ（わかじ）野辺（のべ）の里

### ♪庭の千草

一、庭の千草も むしのねも  
かれて さびしく なりにけり  
ああ しらぎく 嗚呼（ああ） 白菊（しらぎく）  
ひとり おくれて さきにけり  
  
二、露（つゆ）にたわむや 菊の花  
しもに おごるや きくの花  
ああ あわれあわれ ああ 白菊  
人のみさおも かくてこそ

### ♪埴生の宿

一、埴生の宿も わが宿  
玉（たま）のよそい うらやまじ  
のどかなりや 春のそら  
花はあるじ 鳥（とり）は友  
おお わが宿よ  
たのしとも たのもしや  
  
二、ふみよむ窓も わが窓  
瑠璃（るり）の床（ゆか）も うらやまじ  
きよらなりや 秋の夜半（よわ）  
月はあるじ むしは友  
おお わが窓よ  
たのしとも たのもしや

### ♪螢の光

一、ほたるのひかりまどのゆき  
書（ふみ）よむつきひかさねつつ  
いつしか年も すぎのとを  
あけてぞ けさは わかれゆく  
  
二、とまるもゆくも かぎりとして  
かたみにおもう ちよろずの

こころのはしを ひとことに  
さきくとばかり うとうなり

### ♪ほととぎす

一、小暗き（おぐらき）夜半（よわ）を 独  
り（ひとり）行けば

雲よりしばし 月はもれて  
人声（ひとこえ）いずこ 鳴くほととぎす  
見かえる瞬間（ひま）に 姿消えぬ  
夢かとばかり なおも行けば  
またも行く手に やみはおりぬ

二、別れし友よ 今はいずこ  
今宵の月に 君をおもえば  
心はうつろ 思い出消えず  
悩める胸に かえるは彼の（かの）日  
ほしかげたより とともに語りし  
昔のことば いまぞ偲ぶ（しのぶ）

### ♪秋の夜半

一、秋の夜半（よわ）の み空澄みて  
月のひかり 清く白く  
雁（かり）の群の 近く来るよ  
一つ二つ 五つ七つ

二、家をはなれ 国を出でて（いでて）  
ひとり遠く 学ぶわが身  
親を思う 思いしげし  
雁の声に 月の影に

### ♪旅愁

一、更け行く（ふけゆく）秋の夜 旅の空の  
わびしき思いに ひとりなやむ

恋しやふるさと なつかし父母（ちちはは）  
夢路（ゆめじ）にたどるは 故郷（さと）の  
家路（いえじ）

更け行く秋の夜 旅の空の  
わびしき思いに ひとりなやむ

二、窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき（はるけき）彼方に（かなたに） こ  
ころ迷う（まよう）  
恋しやふるさと なつかし父母  
思いに浮かぶは 杜（もり）のこずえ  
窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき彼方に こころ迷う

### ♪星の界（よ）

一、月なきみ空に きらめく光  
嗚呼（ああ）その星影 希望のすがた  
人智（じんち）は果なし（はてなし） 無窮  
（むきゆう）の遠（おち）に  
いざ其の（その）星影 きわめも行かん

二、雲なきみ空に 横とう（よことう）光  
ああ洋々たる（ようようたる） 銀河の流れ  
仰ぎて眺むる 万里の（ばんりの）あなた  
いざ棹させよや（さおさせよや） 窮理の（き  
ゆうりの）船に

### ♪アルプス一万尺

一、アルプス一万尺  
小槍（こやり）の上で  
アルペン踊りを  
さあ踊りましよ  
ランララララララ  
ランララララララ

ランランランラン  
ララララ

二、きのうみた夢  
でっかいさいさい夢だよ  
蚤（のみ）がリュックしょって  
富士登山  
ランランランラン  
ランランランラン  
ランランランラン  
ララララ

三、一万尺に  
テントを張れば  
星のランプに  
手が届く  
ランランランラン  
ランランランラン  
ランランランラン  
ララララ

※一番をもう一度

### ♪くつが鳴る

一、お手つないで 野道を行けば（ゆけば）  
みんな可愛い 小鳥になって  
歌をうたえば 靴（くつ）が鳴る  
晴れたみ空に 靴が鳴る

二、花をつんでは お頭（おつむ）にさせば  
みんな可愛い うさぎになって  
はねて踊れば 靴が鳴る  
晴れたみ空に 靴が鳴る

※一番をもう一度

### ♪あした

一、お母さま  
泣かずにねんね いたしましょう  
赤いお船で 父さまの  
帰るあしたを たのしみに

二、お母さま  
泣かずにねんね いたしましょう  
あしたの朝は 浜に出て  
帰るお船を 待ちましょう

三、お母さま  
泣かずにねんね いたしましょう  
赤いお船の おみやげは  
あの父さまの わらい顔

### ♪青葉の笛

一、一の谷（いちのたに）の 軍破れ（いく  
さやぶれ）  
討たれし（うたれし）平家の 公達（きんだ  
ち）あわれ  
暁（あかつき）寒き 須磨（すま）の嵐に  
聞えしはこれか 青葉の笛

二、更くる（ふくる）夜半に 門を敲き（か  
どをたたき）  
わが師に託せし（たくせし） 言の葉（こと  
のは）あわれ  
今わの際（きわ）まで 持ちし箆（えびら）  
に  
残れるは 花や今宵（こよい）の歌

### ♪波浮の港

一、磯の鶺（う）の鳥や 日暮れにやかえる  
波浮の港にや 夕やけ小やけ  
あすのひよりは  
ヤレホンニサ なぎるやら

二、船もせかせりや 出船のしたく  
島の娘たちや 御神火（ごじんか）ぐらし  
なじよな心で  
ヤレホンニサ いるのやら

三、島で暮らすにや とぼしゆうてならぬ  
伊豆の伊東とは 郵便だより  
下田港とは  
ヤレホンニサ 風だより

四、風は潮風 御神火おろし  
島の娘たちや 出船のときにや  
船のともづな  
ヤレホンニサ 泣いて解く